



お借りして心より御礼申し上げます。させて頂きました。ご協力頂いた皆様、この場を「聴福庵」を舞台に白無垢・紋付袴姿の撮影を

ません。 ち月に東京で挙式・披露宴を行う予定でした なら月に東京で挙式・披露宴を行う予定でした

頂き、思い出の詰まった社内で、引っ越し作業で でいましたが、それでもクルーの皆さんからお祝いをしていましたが、それでもクルーの皆さんから でまってもいないサプライズに驚きと 感動を の思ってもいないサプライズに驚きと 感動を でました。

記録を残したい!という希望を叶えて頂きまし思い入れのある「聴福庵」で、和装で撮影をしたりするで、今回妻と訪れることになり、私自身、た。

で、式を挙げた夫婦がいたのではないかと思うで、式を挙げた夫婦がいたのではないかと思うせん。









武家~庶民にまで親しまれた伝統ある日本の 結婚式は「家婚式」だったそうです。 神社結婚式が一般的になった明治以前は、

り4年半の月日が経ち、様々なところをクル もありました。 ることだそうで、 「家婚式」とは、自宅で花嫁支度・結婚式をす 「聴福庵」は決して私たちの家ではありませ と一緒に直して、 ただ私自身、「聴福庵」に携わるようにな 今回はじめて聞いた言葉で 磨いてきた経緯があり、

「聴福庵」に思い入れがあります。

クルーやカメラマンや着付けの先生など多く の方にご協力いただき、 式をあげたわけではありませんが、 の姿を見て頂けたことが幸せな時間でもあり で撮影をさせて頂けたことは本当に嬉しく、 その皆様に自分たち 「聴福庵」

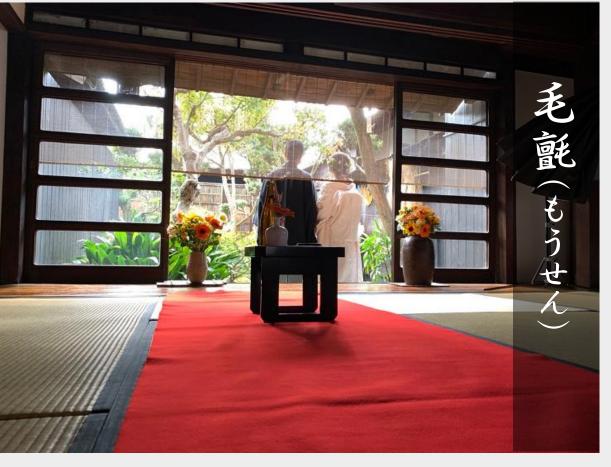
す。 結婚式場で式を挙げることしか考えていませ りましたが、家で式を挙げたらこんな感じか な?ということを、 んでしたので、 コロナがあったからなのだと感じていま 撮影というほんの僅かではあ ほんの少し体験出来たの



衣装とされてきたそうです。して用いられるようになり、最も格式の高い婚礼白無垢は室町時代の頃から武家の娘の婚礼衣装と

衣裳として用いられたと言われているようです。を払い、神聖な儀式に臨むときの衣裳とされ花嫁神様に仕える人の衣裳が白だったことから、邪気

があしらわれたものを羽織っています。御所車や四季の草花をいれたかごを積んだ車など白無垢の柄には、花車文と呼ばれる花で飾った



あい布のことを毛氈と言うそうです。 おうなものが入って、高級武家間で使用され、縁起ようなものが入って、高級武家間で使用され、縁起の良い敷物として、あらゆるの良い敷物として使用され、縁起のの良い敷物として使用され、縁起のの良い敷物として使用されてきたそうです。和の空間に

を貸して頂きました。今回、白無垢をお借りしたホテルのご厚意で毛氈

一気に華やかな雰囲気に様変わりしました。毛氈があるのとないとでは大違いで、床の間が



頂いていたものの式をすぐに挙げることも出 東ず、大事にしまっていました。今回の「聴福 来ず、大事にしまっていました。今回の「聴福 来ず、大事にしまっていました。今回の「聴福 での撮影が決まり、頂いたご祝儀袋も何 に飾りを使用しているなどを発見し、妻と

感じています。皆さんから頂いたものを大事に出来る喜びを



を込めて使うのだそうです。ではなく、閉じたままで「結界の意味・敬意」儀礼用の扇子は、煽いで涼をとるためのもの

教えて頂きました。 教えて頂きました。 養物をするときは手に持ち、それ以外の時は

節目を迎えたことを改めて感じます。生むことを感じます。七五三以来の和装姿に生むことを感じますが、小物一つで華やかさを普段和装をすることありませんので、座り方



綺麗な花々。撮影のためにわざわざ用意してくださった

ではさるその気持ちも嬉しく、自然と笑みなのに当主自ら大きな花器を抱え、彩を添えがこぼれてしまいます。

もほぐれました。方々の楽しそうな雰囲気もあり、徐々に緊張最初こそ撮影も緊張していましたが、周りの



祭事が行われる時に使われてきたそうです。節目に幕をかけることや、ハレの日に特別な幔幕は、家で暮らす人たちが大切な家族の

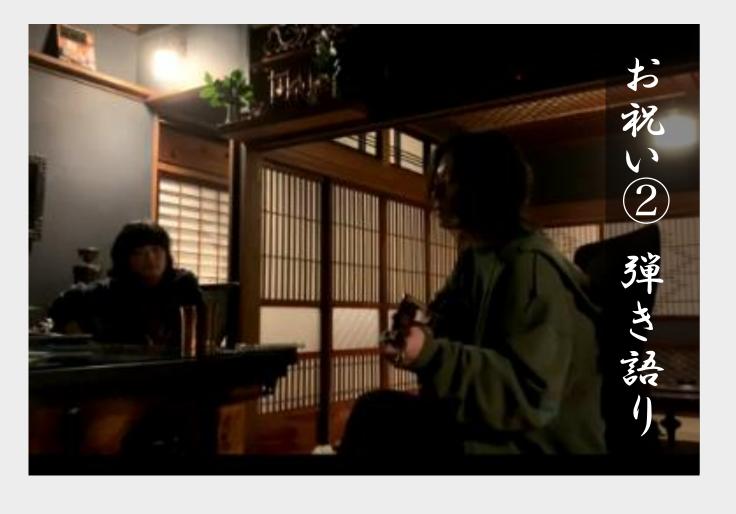
とは、考えづらくなってきています。葬式が行われ、今の時代、家で全てを行うこ昔は、家で出産し、家で結婚式をあげ、家で

事ということを感じます。ハレの日は一家総出の祭庵」もまた、幔幕により美しく着飾っている私達が白無垢・紋袴姿になったように、「聴福



れ、様々なお手伝いをされていました。クルーのご友人が「聴福庵」に数日間滞在さ

**に焼き立てのピザを振舞って下さいました。の元、ピザを焼いている方のようで、撮影後の元もした。この方、普段は有名な職人の方力グヤの一員のように馴染み、一緒に過ごし** 



**当主の双子の兄弟から歌のプレゼントを頂き** 

します。 こ人に最初に出会ったのは、小学6年生だっ にのようか。一緒にお風呂に入ろう!と入

様々な感情が入り混じります。人からの歌のプレゼントに、驚きと嬉しさと、成人して、すっかりお兄さんとなり、その二

ただただ、聞き入ってしまいました。二人の優しさは今も変わらず、素敵な歌声に

## 【聴福庵を通して思うこと】

「聴福庵」に携わるようになった当初、磨いたり、掃除をしたり、肉体労働が続き、1日 たりとも、ゆっくり過ごすなんてありませんでした。月日が経ち、まさかこんな日が訪れ ることになるなんて夢にも思っていませんでした。

妻と二人「聴福庵」にいる不思議さ。「聴福庵」で井戸を掘ったんだよ、柱の傾きを倒した んだよ、竈も作ったんだよ!と歴史を伝えながら、私たち夫婦にとっての思い出が「聴福 庵」で出来たこと、そして一緒になって撮影に臨んでくださった皆様との思い出がここに また一つ刻めたことがなにより嬉しいことです。

きっと私たちが気付いていないだけで、他にもたくさんの方が動いてくださり、準備をしてくれていたのだと感じています。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

2020年12月7日 株式会社カグヤ 奥山卓矢



〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-1-17 東京堂神保町第 3 ビルディング 8 階 Tel:050-1744-8823

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行:株式会社カグヤ 奥山卓矢

## ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、 QRコードからお願いします。

